

令和5年度豊明市協働推進委員会議事録

日時	令和6年1月23日(火) 15:00~17:00
会場	豊明市共生交流プラザ 北館3階 活動室3
出席者	委員：三矢勝司、安井昌代、兼子幸夫、川津昭美、綾部六郎、三浦みさ子、森田凌介 (以上7名) 豊明市：共生社会課長、協働推進担当係長、地域共生担当係長、担当職員(3名) 傍聴者1名

議 事

1 課長あいさつ

2 委嘱状交付

3 自己紹介

4 委員長・副委員長の選任

委員長の選任について、三矢委員が推薦され、承認された。

副委員長として、三矢委員から安井委員が指名された。事務局から安井委員に意向を確認したところ、快諾していただいた。

5 前回のふりかえり

○事務局より資料1-1、1-2に基づき説明

6 協議事項

◆カラット利用状況について

○事務局より資料2-1に基づき説明。

— 質疑・意見交換

- ・カラットの運営をしていく中で、こういう事をやってみたいという利用者からの声が窓口に沢山届く。そういった声をどれだけ吸い上げられるかに注力したい。
 - ・市民からのやってみたいで始まったことは、例えば子ども服の交換市。あまり裕福ではないご家庭の子どもへの支援をしたいという思いに共感し実現。月に1回の定期開催になっている。
 - ・市民の思いが実現したプロセスを情報発信していくべき。
- 四半期ごとに発行するカラットニュースや広報で発信していく。
- ・秋まつりをカラットで行っていることで、カラットの利用者が秋まつりを目標に活動されていることが多いと感じている。
 - ・カラットがあることで、秋まつりの参加者が気兼ねなく問合せができるので市民の方が様々な関

わり方ができるまつりになっている。

- ・高校生までの子どもたちが勉強をしにカラットに来ている。そういう子どもたちにボランティア参加を呼び掛けていきたい。
 - ・自然とボランティアとして参加できる工夫を施設全体として仕込めるといいと思う。公共施設自体をメディアとして活用してもらいたい。
 - ・若者世代が活用する施設として狙い通りだと感じる。しかし、住む地域によって高齢者は交通が不便なためカラットまで来ることが難しい。
 - ・災害があった際のカラットの利用について教えてほしい。
- 避難所および長期避難施設として指定されている。学校の早期再開に向けて、各小学校で一次避難を受け入れ、その後長期避難が必要になった場合はカラットで受け入れる。

◆重層的支援体制整備事業の概要について

○事務局より資料2-2、2-3に基づき説明

一 質疑・意見交換

- ・災害時の要支援者の名簿は各町内会長に共有されているが、誰が救助するかは整備されていない。救助する側を増やす施策を行政と取り組んでいきたい。そのきっかけとして、共生社会課の取り組みは非常に効果的だと感じる。
 - ・重層的支援体制整備事業は時代のキーワードであるが、聞いたことがある程度だったので今回具体的な内容が聞けて良かった。
 - ・地域の活動にも若者が集まるような施策は今後の委員会で検討していきたい。
 - ・カラットのユーザー層は若者が中心なのか。
- 子育て支援センター、児童発達支援センターがあるおかげで、子育て世代のユーザーは多いと感じている。ただし、貸館やフリースペースの利用は午前中が高齢者、午後は学校終わりの子どもたち、夕方は勉強しに中学生から大学生が利用し、夜間は仕事終わりの社会人の方々が利用するなど時間帯によって異なっている。
- ・「おたがいさまセンターちゃっと」のケースで、先日奥様が亡くなられた高齢者の男性が施設入所を検討していたが、ケアマネージャーよりちゃっとを利用してみたいかの話しを受け、料理のサポートを利用。ひさしぶりの手料理を食べたことで、もう少し自宅で頑張ってみようと思いが変わった。今後がんばってほしい。
 - ・市民は近所の人の変化に気づいているが、相談しても良い内容かがわからない。市として受け止める体制の整備や繋げる場所拡大など長期的にがんばってほしい。
 - ・性的マイノリティやLGBTQ+への対応については今後の課題であると感じている。

7 その他

次年度の協働推進委員会については、後日改めて日程を調整する